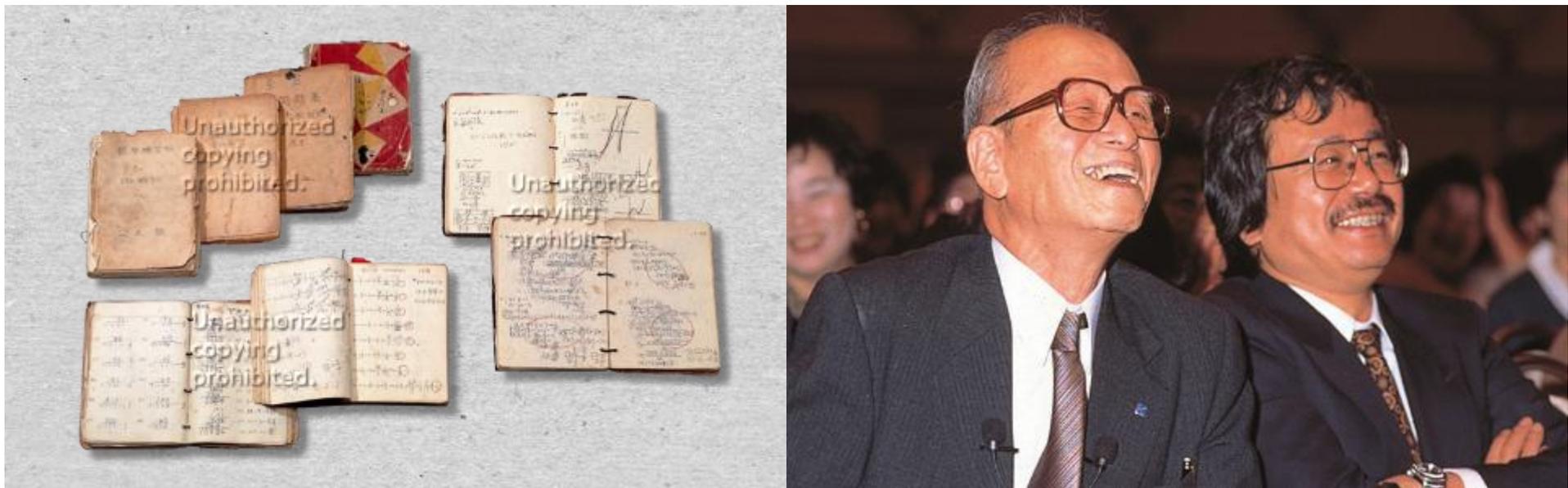


アフリカにおける日本型教育の展開 ～ガーナでの基礎学力向上への取組を通じて～



本日の内容

- 1. KUMONとパートナー共創による事業について**
- 2. 学校での公文式学習プログラム**
- 3. EDU-Port調査研究事業の結果**
- 4. アフリカにおける実践から**



一組の親子の絆から生まれた教育法

- 1954年、高校の数学教師公文公（くもんとおる）が、わが子のために手書きの教材を作成。
- 小2の長男・毅（たけし）は毎日30分の自習で力をつけ、小6のときに微分積分の学習にまで到達。
- 「この方法で、一人でも多くの子どもたちの可能性を伸ばしたい」と考えた公文公は、1958年、大阪に最初の事務局を開き、本格的な普及活動に乗り出した。

会社概要

社名	株式会社 公文教育研究会
代表取締役社長	田中 三教
創立	1958年7月（昭和33年）
資本金	44億18百万円
連結売上高	940億39百万円
連結経常利益	167億17百万円
拠点数	国内48カ所、海外67カ所
従業員数	3,626人 (KUMONグループ全体)

2025年3月現在



世界60を超える国と地域に広がるKUMON

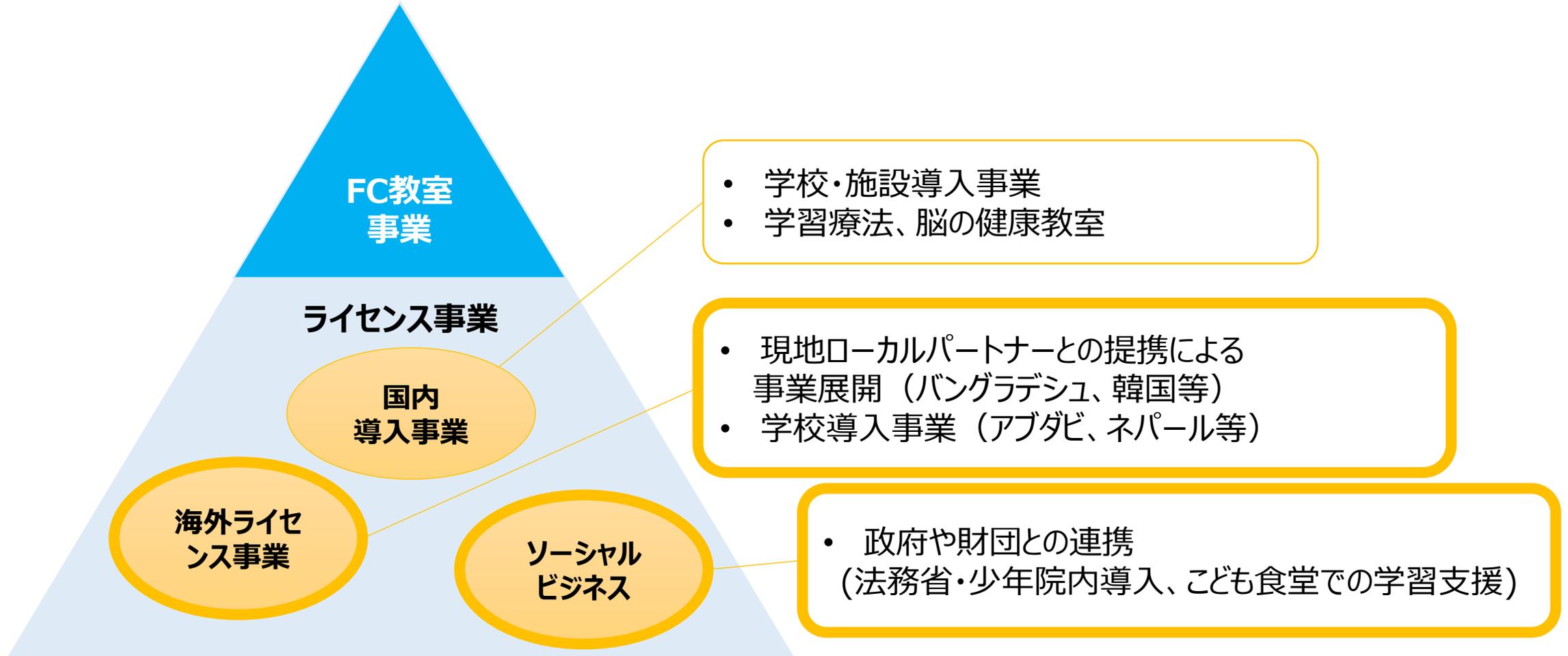


全世界合計学習者数 358万 (日本国内131万)

※2025月9月時点

KUMONの新しいチャレンジ

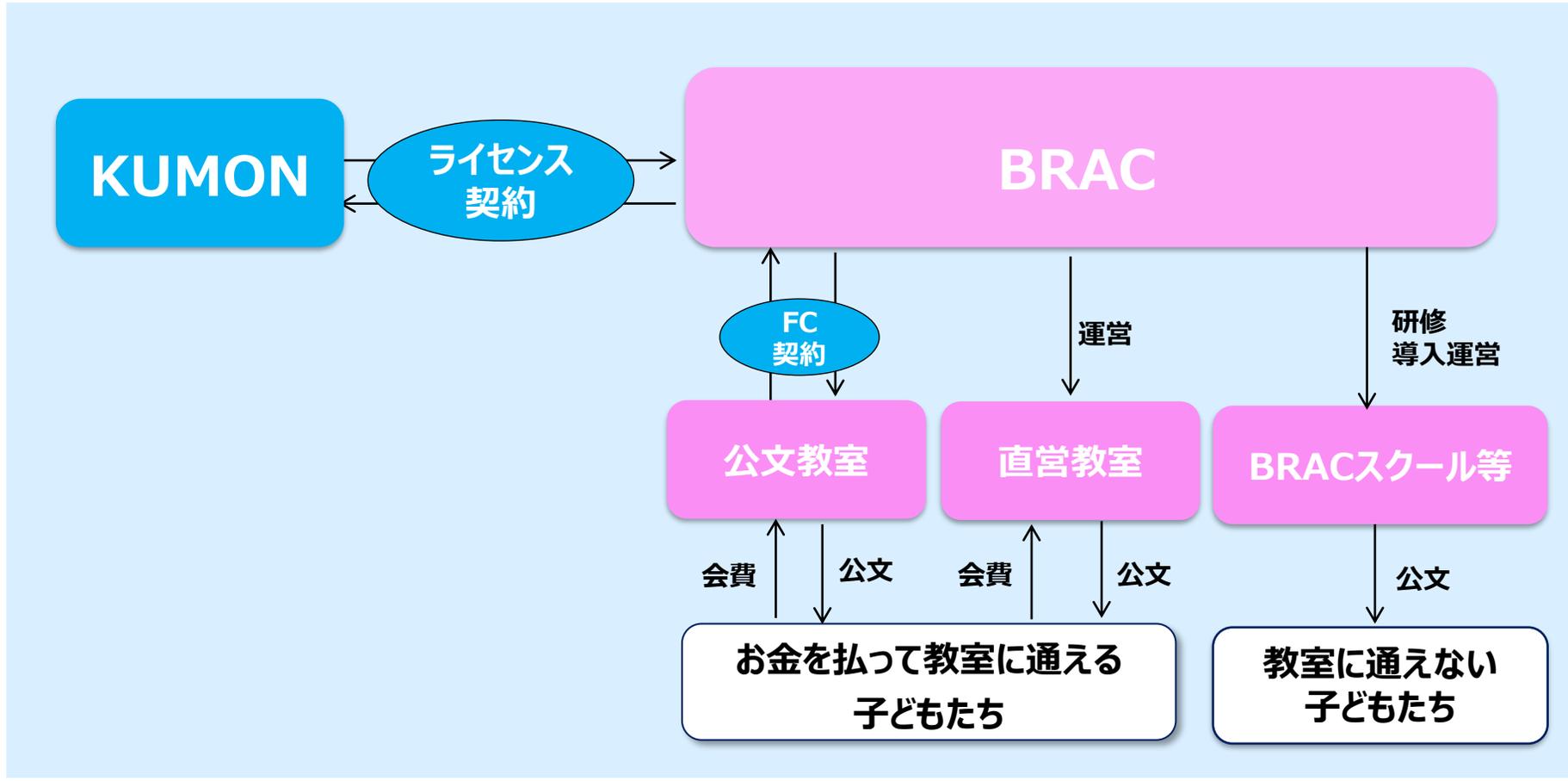
フランチャイズ教室事業では公文式を届けられない層に、パートナーと共に公文式を届ける。



パートナー共創による事業の一例 <バングラデシュ>



国際NGO BRACにライセンスを付与し、バングラデシュにて持続可能な形で全ての所得層に公文式提供を行っている。



パートナー共創による事業の一例 <アブダビ>



アブダビ首長国での社会貢献に取り組むJODCO(INPEX)とのパートナーシップの元、公文式を小学校に導入し、子どもたちの学力水準向上への貢献に取り組んでいる。



※令和3年度のEDU-Port応援プロジェクトとして採択いただきました。

アフリカでのEDU-Portにサポートいただいた取り組み



南アフリカの縫製工場の従業員向けに、公文式学習を提供。職業訓練としての学習の可能性を検証した。



あしなが育英会によって運営されているウガンダの遺児支援施設での公文式導入。学力、非認知能力の向上が見られている。



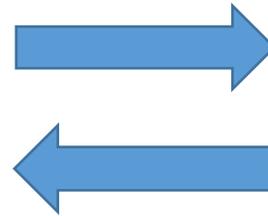
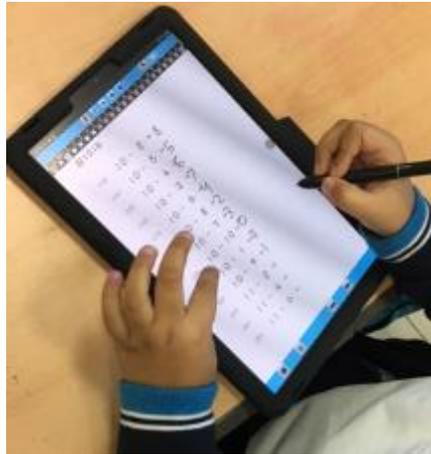
2. 学校内での公文式学習プログラム

学校や施設への公文式導入



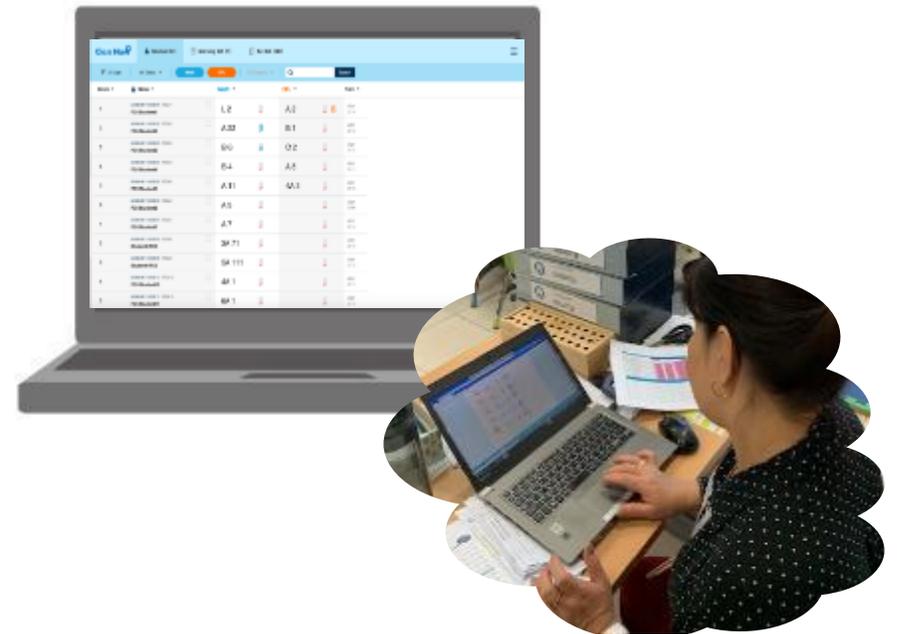
デジタルKUMON（タブレット学習）

学習者 （ペン付きタブレット）



* 教材のダウンロードと提出時にはインターネット接続が必要だが、教材ダウンロード後は、オフラインで学習可能。

指導者・指導スタッフ （PC）



* 採点時はインターネット接続が必要。

デジタルKUMON (タブレット学習)

3A103a **100** KUMON
Adding 1 Part 4 (Up to 30 + 1)

Grade	A	B	C	D
Minutes	1	2~4	5~7	8~14

◆ Add.

(1) $12 + 1 = 13$

(2) $14 + 1 = 15$

(3) $16 + 1 = 17$

(4) $15 + 1 = 16$

(5) $19 + 1 = 20$

(6) $21 + 1 = 22$

(7) $23 + 1 = 24$

A9a KUMON
Addition 1 (Review up to 2A)

Grade	A	B	C	D
Minutes	1~2	3~6	7~10	11~20

◆ Add.

(1) $4 + 4 = 8$

(2) $7 + 4 = 12$

(3) $5 + 4 = 9$

(4) $4 + 5 = 9$

(5) $3 + 5 = 8$

(6) $6 + 5 = 11$

(7) $3 + 6 = 9$

(8) $4 + 6 = 10$

(9) $6 + 6 = 12$

(10) $9 + 6 = 15$

95
↓

B46a **100** KUMON
Addition of 2-Digit Numbers 1

Grade	A	B	C	D
Minutes	1~2	3~6	7~10	11~20

◆ Add.

(1) $\begin{array}{r} 22 \\ + 53 \\ \hline 75 \end{array}$

(2) $\begin{array}{r} 32 \\ + 54 \\ \hline 86 \end{array}$

(3) $\begin{array}{r} 43 \\ + 54 \\ \hline 97 \end{array}$

(4) $\begin{array}{r} 43 \\ + 65 \\ \hline 108 \end{array}$

(5) $\begin{array}{r} 44 \\ + 75 \\ \hline 119 \end{array}$

(6) $\begin{array}{r} 58 \\ + 15 \\ \hline 73 \end{array}$

(7) $\begin{array}{r} 58 \\ + 25 \\ \hline 83 \end{array}$

(8) $\begin{array}{r} 58 \\ + 35 \\ \hline 93 \end{array}$

(9) $\begin{array}{r} 58 \\ + 45 \\ \hline 103 \end{array}$

(10) $\begin{array}{r} 58 \\ + 55 \\ \hline 113 \end{array}$

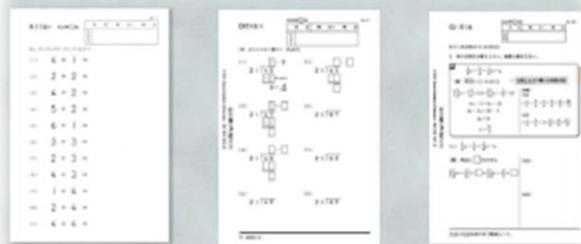
95
↓

公文式学校導入プログラムの特徴

■ 複数サービスが一体となったOne Packageであること

- ・教育は人が行うというスタンスにたったICT化になっており、
- ・その上で教材、指導法、研修、日々のサポート、生徒管理システムが一体となったオールインクルーシブ型のパッケージであること

教材



パッケージ
サービス

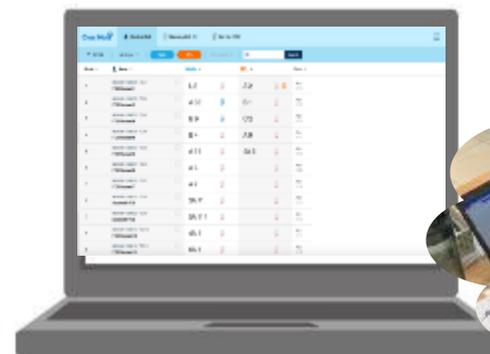


指導法

研修



サポート



システム



世界に広がる公文式学校導入プログラム



日本も含め、現在10の国と地域で、
Kumon in Schoolが広がっている。

3. EDU-Port調査研究事業の結果

ガーナにおける調査研究の概要



- ✓ ガーナの子どもたちの認知・非認知能力のアセスメントを実施し、
ガーナの小学校の現状を把握する。
- ✓ 一斉授業が主体の学校において、「個人別の学習（公文式）」や
「教具を用いた学び」の活用を通じて、学力（主に計算能力）や
学びに向かう姿勢、自己肯定感といった非認知能力を高めることが
できるかを検証する。

＜主な活動計画＞

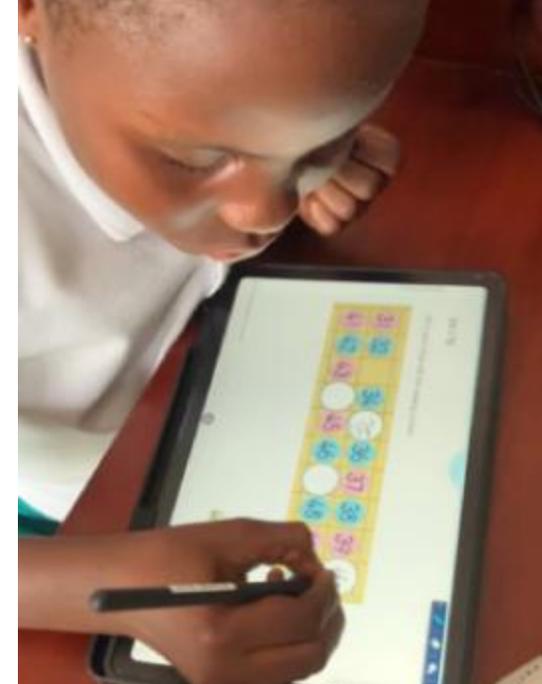
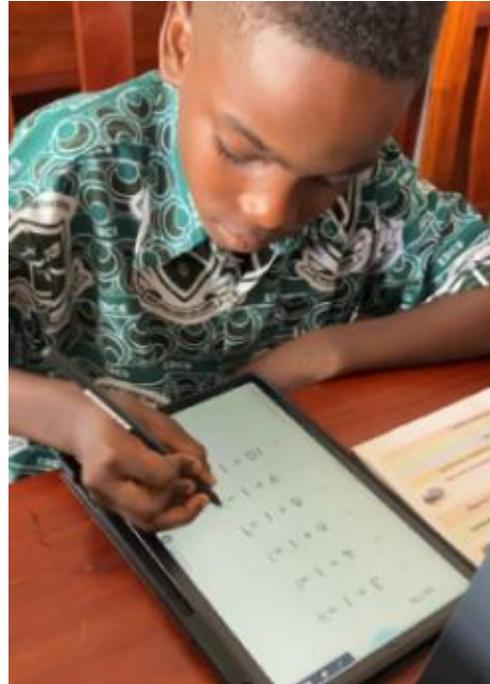
- ① 現状把握のためのアセスメント
- ② 学校への公文式学習の導入（約3か月）
- ③ 効果測定

①現状把握のためのアセスメント

②学校への公文式学習の導入

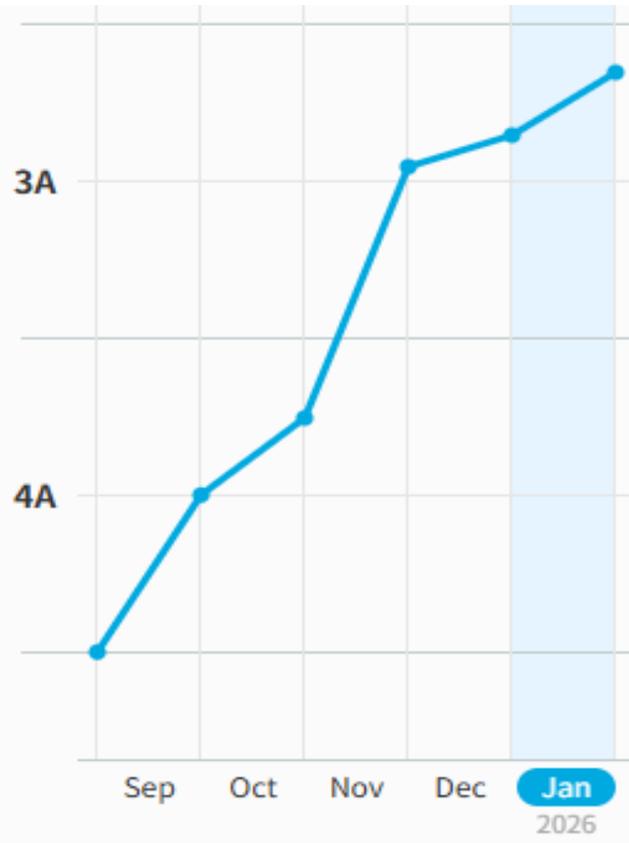
学校への公文式学習導入の概要

- 対象：EBCS校（Low-Fee private school)の小3、44名
- 学習頻度：週5日、1回あたり30分、約3か月間
- 学習サポート体制：
 - ①小3担当の先生方がKUMONの研修を受けて、日々の公文式学習をサポート
 - ②日本からの遠隔サポート

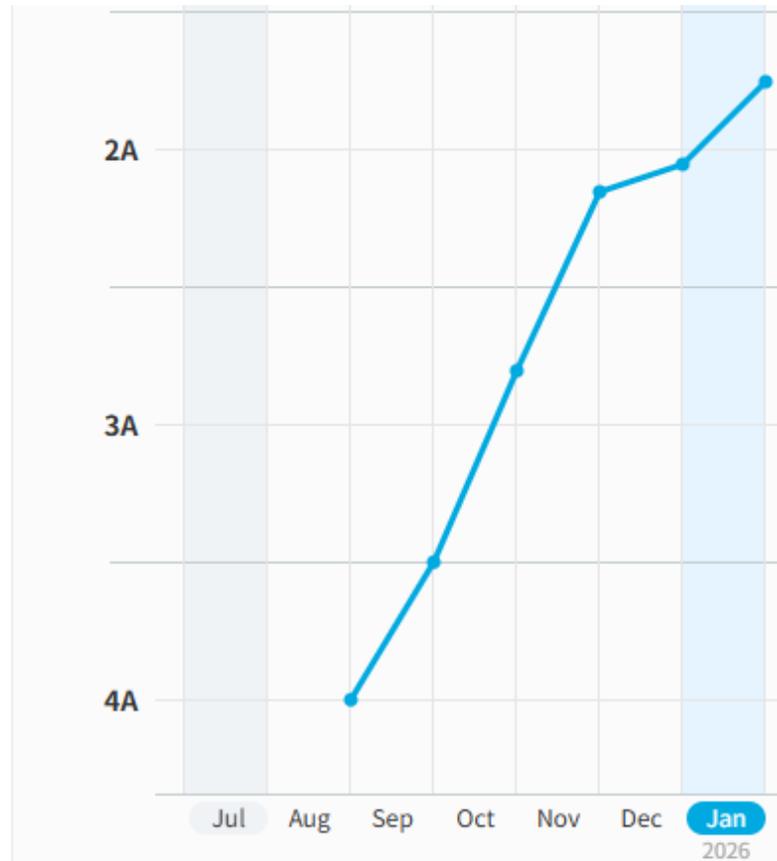


日本からの遠隔サポートについて

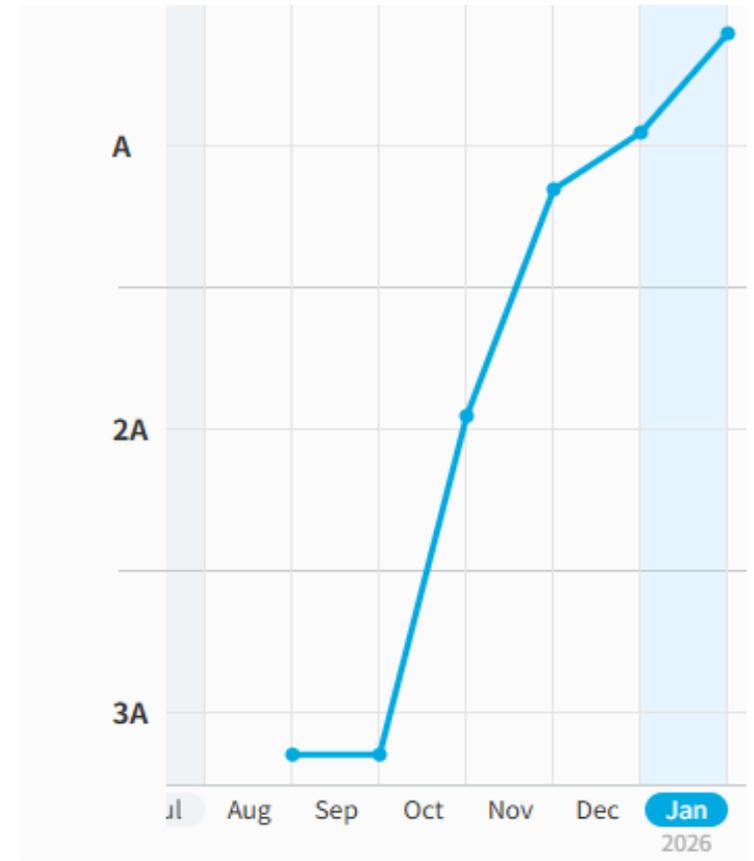
現地の学習の記録を日本から確認ができるため、データにもとづいて、個人別に現地の指導のサポートすることが可能。



Progress	4A	4A	3A	3A	3A
# of WS	8	152	169	20	51
# of Days	1	14	13	2	6



Progress		4A	3A	3A	2A	2A	2A
# of WS		101	1	140	70	90	150
# of Days			1	22	18	4	10

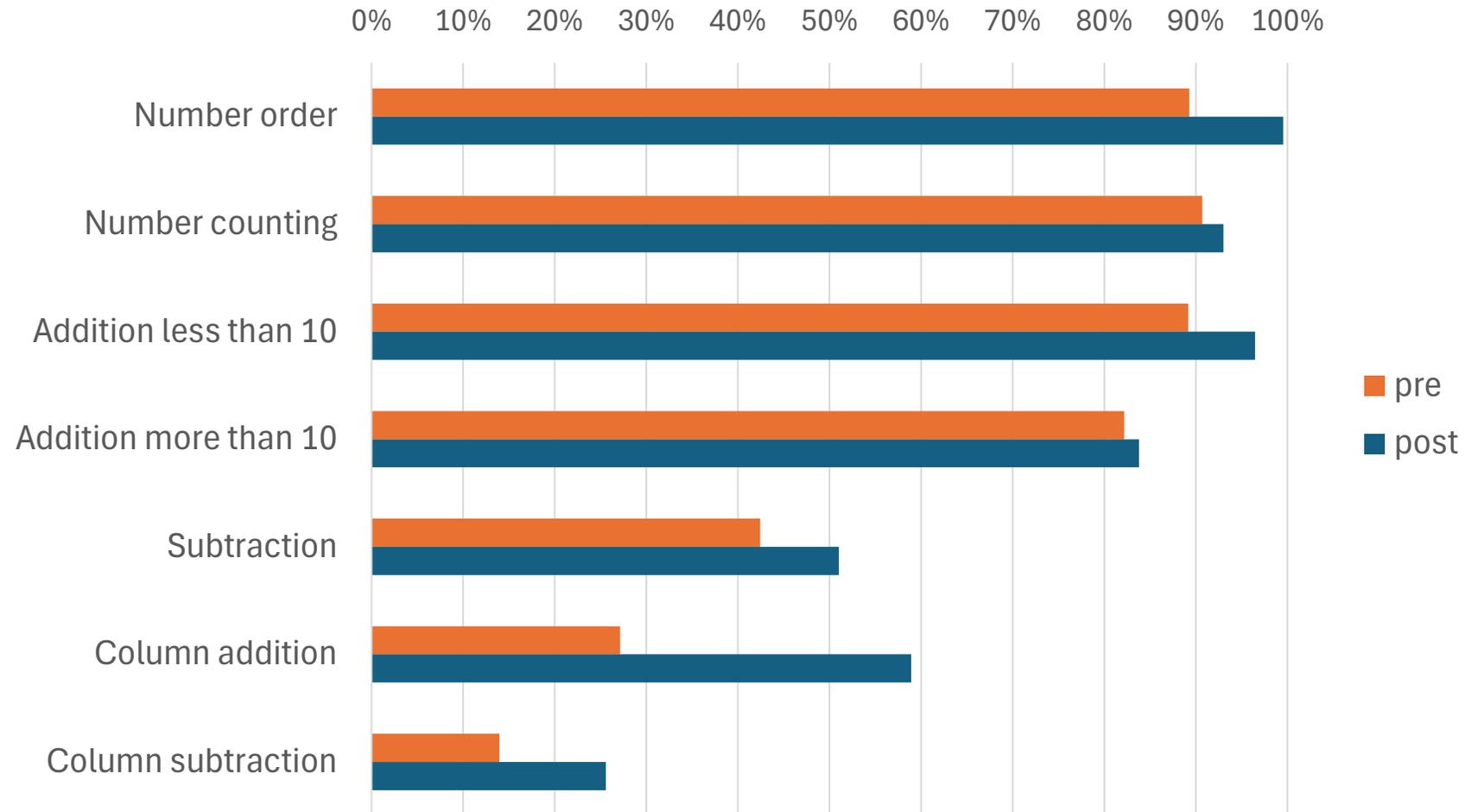


Progress		3A	3A	2A	A	A	A
# of WS		71	71	110	70	110	180
# of Days			1	22	19	4	11

③効果測定

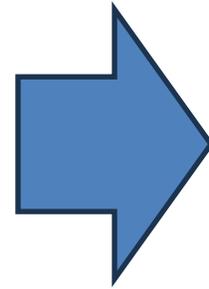
学力の変化

- 学習前後で比較すると、すべての単元における習熟度が高まった。
- 所定の時間で解ききれない生徒も半分以下となり、基礎的な計算をより早く・より正確に解けるようになった。



学力の変化

- 学習開始前には、1ケタのたしざんでもほぼすべての生徒が指を使って計算していたが、暗算で答えを出せるようになった。
- 子どもたちも自分たちの成長を実感し、「算数が好きになった」と口をそろえて言うようになった。



学力の変化

- 3か月で、公文の教材を平均400枚以上学習した生徒が85%
- 公文式の教材は1レベルあたり200枚で構成されているため、多くの生徒が2レベル以上進んだことになる。

3A50a KUMON
Addition Part 1 (Sum of 10 + 1)

100

• Add

(1) $4 + 1 = 5$

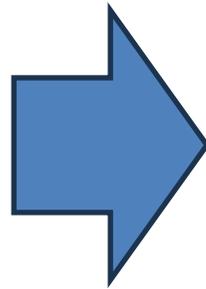
(2) $5 + 1 = 6$

(3) $7 + 1 = 8$

(4) $10 + 1 = 11$

(5) $9 + 1 = 10$

(6) $11 + 1 = 12$



A60a KUMON
Addition 2-Dig to sum of 20

100

• Add

(1) $7 + 9 = 16$

(2) $7 + 7 = 14$

(3) $8 + 7 = 15$

(4) $7 + 8 = 15$

(5) $8 + 6 = 14$

(6) $9 + 7 = 16$

(7) $6 + 9 = 15$

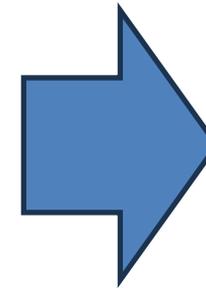
(8) $8 + 9 = 17$

(9) $9 + 8 = 17$

(10) $10 + 6 = 16$

(11) $11 + 9 = 20$

(12) $12 + 7 = 19$



B100a KUMON
Addition of 3-Digit Numbers 3

100

• Add or fill in the missing numbers.

(1) $\begin{array}{r} 475 \\ +364 \\ \hline 839 \end{array}$ (2) $\begin{array}{r} 318 \\ +826 \\ \hline 1144 \end{array}$

(3) $\begin{array}{r} 293 \\ +184 \\ \hline 477 \end{array}$ (4) $\begin{array}{r} 456 \\ +837 \\ \hline 1293 \end{array}$

(5) $\begin{array}{r} 670 \\ +175 \\ \hline 845 \end{array}$ (6) $\begin{array}{r} 214 \\ +868 \\ \hline 1082 \end{array}$

(7) $\begin{array}{r} 158 \\ +493 \\ \hline 651 \end{array}$ (8) $\begin{array}{r} 395 \\ +875 \\ \hline 1270 \end{array}$

非認知能力の変化

- 学校の先生からは、公文式学習導入後、子どもたちの定性的な変化として、下記のような変化を感じていらっしゃるとお聞きしている。
(具体的な生徒事例のご紹介)

<子どもたちの変化>

- ✓ 普段の生活でも時間を意識するようになった。次の行動を考えて動くようになった。(タイムマネジメント、段取り力)
- ✓ 文字を書く速度が上がり、授業中に取り組む課題(板書など)にかかる時間が短くなった。(作業力、集中力)
- ✓ 公文式学習を通じて自分で考える姿勢が身についたため、通常の授業でも、課題に取り組む際に、安易に先生聞かずに自分で取り組むようになった。生徒の自立度が上がり、必要なサポートが格段に減った。(自分で考える姿勢)

先生方の変化

- 先生方自身も、学習のサポートを通して、さまざまな気づきと変化があるとフィードバックいただいている。

- ✓ 一人ひとりに強みがあり、違いがあることを通常の授業でも意識して関わるようになった。
- ✓ できたことを認めてモチベーションを関わることで、子どもたちは頑張れるのだとわかった。



4. アフリカにおける実践から

アフリカにおける広がり

● フランチャイズ教室設置国

★ パートナー協働事業実施国

ガーナ



2025年、EDU-Port調査研究事業として、現地NGOとともに私立小学校での公文式学習導入を実施。

ナミビア



2025年、産業人材育成への貢献を目指す経産省による資金援助を受け、現地NGOとともに公立小学校での公文式学習導入を実施。

ウガンダ



2023年～、あしなが育英会との協働で、同団体が運営する遺児向けの支援施設での算数の学習を支援。

南アフリカ



2023～2024年、EDU-Port調査研究事業として、現地の縫製工場に公文式学習を導入し、従業員の基礎計算力向上に貢献。

各地で現地の方々からお聞きしている声

	具体的な声や価値	
ガーナ	先生からの指示がなくとも、自分で自分の学習の環境を整え（順番にタブレットをとって席に着くなど）、 <u>学習に取り組む自律的な姿勢が身についた。</u>	礼儀や作法 自己管理
	子どもたちの力には差があること、習熟にかかる時間も <u>一人ひとり違うことを認識し、普段の授業でもそのことに配慮するようになった。</u>	観察、カイゼン 個別最適化
ナミビア	生徒が指を使わずに素早く暗算ができるようになったことが一番の驚き。これまでは間違いに対して見て見ぬふりをしていた生徒が、 <u>自ら進んで間違いを修正する力と習慣が身に付いたことも大きな変化。</u> 自分自身も <u>生徒を個人別に観察する意識が高まったとともに、彼らの自主性を重んじようという気持ちが芽生え、日々の授業でも実践するようになりました。</u>	習慣づくり、自己管理 観察 自主性の尊重
	生徒の多くが <u>算数の授業が好きになったことで、通常の算数の授業でも集中力が長続きするようになり、より積極的に参加するようになった。</u> これまで教員の指示を待つばかりだった生徒が、 <u>自学自習の経験をいかし、自分で問題を読んで解き進めていけるようになった。</u>	非認知能力の向上 生活全体の質向上
南ア ※若年労働者向けプロジェクト	公文の学習は、 <u>そのプログラムがしっかりしていて素晴らしい。</u> 学習を通じて労働者は自信がついたように感じられた。	サービスの質の高さ、きめ細やかさ
	学習しているうちに計算の力だけでなく、集中力や忍耐力、問題解決の力を与えてくれるような気がしました。そして、 <u>実際にそれらのスキルを得られていると感じましたし、時間管理などのスキルも身につくと感じました。</u>	成果

海外で広がる要素（現地評価）

1. できるようになること、好きになること（到達点）に重きを置いている

- 年齢や学年ではなく到達度に基づく学習
 - 学習法という立場から誰一人、取り残さない学習設計
 - 学力の見える化
- 「基礎学力の課題」に応えられる

2. 自学・自律学習の育成

- 教え込むのではなく、「自分で考え、進み、直す」力を育てる。
 - 学習者が主体、教室は支援者
- 非認知能力（継続、自己管理）など、生涯必要な力を身につけられる

3. 教師依存度の低い仕組みづくり

- 高度な教員の専門スキルに依存しない。
 - 教材、評価、運営が標準化されたもの
 - 教育の質を「個人」ではなく、「仕組み」で担保
- 実際の学習時間の中で、観察眼、いいところを褒めるなど教師が成長する機会がある。

4. 文化・制度適応力

- 各国政府のカリキュラム・文化を尊重する。
 - 政府・学校・民間・N G Oと公教育、私教育、補完教育、施設なども柔軟に対応
- 相手に合わせた形で、成果をあげる仕組みになっている。

ご清聴ありがとうございました

